

『湖を渡る八重垣姫』～諏訪の歴史を照らす～⑧

鎌倉幕府と強い繋がりを持つていた諏訪は、幕府の終焉に伴って諏訪一族の多くを失いました。その痛手も冷めやらぬ中、大塔合戦が起き、諏訪の武将も上社方、下社方と分かれて戦いました。この戦は、戦国時代の先駆けとも言われています。諏訪家は元々政治と祭祀の棲み分けをしてきましたが、その中で勢力争いが起こり、一枚岩とはいかなかったようです。

そんな中、武田信玄は、武神とされた諏訪明神の「法性の兜」を手に、天下統一に向けて躍り出ます。八重垣姫は物語の中で、その兜を手にする事になります。

「湖畔」の八重垣姫について調べていると、意外な事実に出会いました。昭和30年代半ばの新聞の記事に、諏訪湖祭りで「八重垣姫



小野安郎氏が所有していた「八重垣姫」の人形。地域の有志によって手作りされたという



ぶらり諏訪塾の冊子は、諏訪市観光案内所

(JR上諏訪駅内) ねすとらん割烹いずみ屋

書店「言事堂」(諏訪市諏訪)

すわ大昔情報センター(諏訪市末広)

諏訪書店(通販のみ) 57・0997

柏屋カフエ&ギャラリー(諏訪市中洲神宮寺)

で販売中です。

― 随時掲載

詳しい場所などの問い合わせは 諏訪塾事務局(電話070・8323・2107)へ。

今回の筆者



矢崎裕子さん

同人誌『蠍』会員。狼煙会やまちなか案内人などの市民活動を通じて修行中